

目指す学校像	子ども達が嬉々として登校し、充実感に満ちて家路につく学校
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> よさを見つけ、認め、伸ばすことで、児童一人ひとりが達成感を味わえる教育活動の展開する。 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりと、セーフコミュニティの取組を通じた「自助・共助」の意識の育成を図る。 コミュニティ・スクールの取組を通じて、学校・家庭・地域の連携を深め、「オール大宮北小」の具現化を図る。 教師の指導力の向上を図り、「アクティブ・ラーニング」の視点で、学び方が身につく教育実践に取り組む。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価		年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>〈現状〉 ＜全国学力・学習状況調査＞ ○国語、算数ともに全国、市平均と比べ10%以上良好な結果であり、特に、国語の「読むこと」+13.7%、算数の「変化と関係」+14.0%、「図形」+13.8%と大幅に全国平均を上回っている。 ○国語において、全国平均と比べ、「授業内容がよく分かる」+7.3%に対し、「国語の勉強が好き」-3.1%と授業は分かっているが、好きではないという割合が多い。 ＜市学習状況調査＞ ○3～6年生において学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ国語、理科が低く、社会が同じ、算数でやや高い。 〈課題〉 ○児童の学習への意欲向上のため、より一層魅力ある授業の実現が必要である。 ○引き続き基礎学力の定着を図ることが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用による授業改善 アクティブ・ラーニング型授業の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 学校課題研修において、「ICT機器の効果的な活用」をテーマとし、教職員を対象にICT機器の具体的な活用方法に関する研修の充実、効果的な活用方法の共有などを通して、ICT機器活用を促進し、魅力ある授業の実現を図る。 スタディサプリ導入に向け、計画的に準備を進めるとともに、児童の活用促進に向け、教職員への教材の使用方法等の情報提供を行い、家庭学習の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 市学習状況調査、生活習慣に関する調査において、「国語、算数の勉強が好き」との設問への肯定的な回答の割合を前年度以上とする。 3年生以上のすべてのクラスにおいて、スタディサプリを使用した家庭学習が実施できるような準備、環境・運用方法の構築ができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 市学習状況調査の結果では、3～6年生「国語の勉強が好き」の肯定的な回答の割合は、74.7%と昨年度より7.5%上回った。「算数の勉強が好き」は、70.5%と昨年度より2.8%下回ったが、全体としては向上が見られた。 スタディサプリの活用については、家庭での活用促進のため、独自のマニュアルを配付するとともに、タブレット端末の持ち帰りなどにより3年生以上だけでなく、全ての学年で家庭での取り組みができた。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 国語については、ICT機器の活用促進、外部講師による国語指導に関する研修等の成果の表れと考える。引き続き、国語の指導充実を図るとともに、外部講師による研修を実施したい。 スタディサプリの活用については、取り組み方に個人差もある。家庭学習を中心とした活用を引き続き軸とし、長期休みの課題、宿題等での活用を促進していきたい。 	<p>学校運営協議会による評価</p> <p>実施日令和5年2月3日</p> <p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <p>＜意見・要望＞ ・市学習状況調査において、国語が好きになっている要因については、さらなる分析を行い、次年度に継続できるとよいのではないだろうか。 ・国語科でのICT活用は、難しい面もあるのではと考えているが、ICTによって国語科の魅力が高まっているのであれば、具体的にわかるとよいのではないだろうか。 ・スタディサプリについては、長期休業・家庭学習の充実としての活用が進んでいるようであるが、朝学習、授業や宿題など、活用の幅を広げてみるのもよいのではないか。 ＜評価＞A評価が妥当である。</p>
2	<p>〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均を下回った。 ○昨年度、校内でけがをし、保健室で手当を受けた児童の延べ人数は、647人であった。なお、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけがは0件であった。 〈課題〉 ○学校の魅力向上が求められるが、不登校児童は大変少ない。 ○7月より学校リフレッシュ工事が約2年以上に渡り実施されることから、児童の安全確保がより一層求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくり 学校リフレッシュ工事に伴う施設等の適切な管理 	<ol style="list-style-type: none"> 整った環境で居心地のよさを実感し、その環境を保とうという心を育てるため、月一回朝の「ピカピカタイム」や日々の清掃活動にしっかり取り組む。 安全点検の着実な実施と、危険箇所確認時には、担当課や業者と連携を図り速やかに対応する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校自己評価に係る児童アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合90%以上とする。 危険箇所認知日のうちに改善に向けた対応を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校自己評価の児童アンケート「きれいにしようとし生懸命掃除に取り組みましたか。」の肯定的な回答は、91.5%となり、昨年より0.7%上回った。 安全点検の実施、危険箇所の認知に対しては、当日のうちに改善に向けた対応が実施できた。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 清掃活動は、リフレッシュ工事の影響により仮設校舎及び限られた校庭での実施となる。制限の中でも工夫した清掃活動を行いたい。 仮設校舎における安全点検の箇所は大きな変更が生じるため、実施内容を十分検討し、実施していきたい。 	<p>＜意見・要望＞ ・リフレッシュ工事に伴う工事車両の進入については、公民館利用者への影響もあることから、次の工事担当会社にも、配慮するよう伝えて欲しい。 ・校庭がほぼ使用できなくなることだが、放課後の利用などは継続して欲しい。 ＜評価＞A評価が妥当である。</p>
3	<p>〈現状〉 ○昨年度、本校学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、3度実施し、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、児童・保護者・地域が児童を共有し、相互補完的に協働する素地をつくった。 〈課題〉 ○学校の様子を地域に発信していくうえで、学校Webページによるより一層の情報発信が求められる。 ○今年度は、コミュニティ・スクール元年として学校運営協議会を通じて、地域の関係機関及び団体等との協働体制を整え、学校を核とした地域づくりを進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校Webページ活用による情報発信 学校運営協議会の適切な運営 	<ol style="list-style-type: none"> 本校Webページ、トップページに新たに週1回程度学校の様子を写真とともにつたえる「北小トピックス」を作成、継続的な更新を行う。 学校運営協議会及びPTAに関するWebページの内容充実を図り、保護者・地域が学校の活動への参加促進を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校Webページの更新を週1回以上行う。 学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、「地域への情報発信」に関する項目への肯定的な回答の割合90%以上とする。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校Webページの更新回数は、1月時点で70回を超え、週1回を上回っての情報発信ができた。 学校自己評価保護者アンケートにおける「地域への情報発信」に関する項目への肯定的な回答の割合は、95.2%と前年度を1.2%上回り、目標を達成できた。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 4月から学校Webページは形式、更新方法等、大きなシステム変更となる。新たに手順を習得する必要があるが、これまで同様、情報発信できるよう研修を充実させていきたい。 新システムを生かし、学校運営協議会、PTAの活動を発信していきたい。 	<p>＜意見・要望＞ ・学校Webページの利用については、より効果的な発信が求められると考える。学校自己評価システムシートについても、ただシートをWebに掲載するのではなく、様々な学校の努力の姿が伝わるように発信できるとよいのではないだろうか。 ＜評価＞A評価が妥当である。</p>
4	<p>〈現状〉 ○昨年度、市教育委員会より、社会に開かれた教育課程「さいたま市小・中一貫教育」、「さいたまSTEAMS教育」の研究委嘱を受け、3年間の研究のまとめを終えた。 ○本年度は、自主研修としてICT機器の効果的な活用を中心に研究を進めている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の結果を受け、児童の学習への意欲向上、魅力ある授業の実現に向けた方策を検討している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングの視点でICT機器を活用する指導力の向上 	<ol style="list-style-type: none"> 外部講師を招いての講義を年3回実施し、指導方法の幅を広げる。 校内研修の中で「ICT活用実践交流会」を実施し、普段のICT活用方法、今後のICT活用方法等について学び合える時間を設ける。 校務用コンピュータ共有フォルダに普段のICT実践の写真フォルダを作成し、保存及び共有するシステムを構築する。 年17回の校内研修会において、感想、疑問・質問、提案を記録し共有できる「振り返りシート」を作成し、ICT支援員等が記載内容を受け、支援に結びつける。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合90%以上とする。 市のICT活用状況調査において、昨年度より利用時間を上回る。 	<ol style="list-style-type: none"> 外部講師を招いた年3回の研修、活用実践の交流、EXCELの共同編集による振り返りを記入等、研修の充実を図ることができた。学校自己評価の教職員アンケートでは、研修に関する項目の肯定的な回答の割合は、100%と前年度を5.9%上回った。 市のICT活用状況調査は、現段階で結果が出ていないが、一人一台タブレット端末の整備、教室への常設プロジェクトの整備もあり、昨年度と比べ飛躍的に活用時間が増えているのは間違いない。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 外部講師による研修を引き続き実施し、指導力向上に努める。 ICT活用を軸とした校内研修も2年目となるため、本年度の取り組みを継続し、深化していきたい。 ICT実践の写真については、フォルダではなく、Teams上に投稿することにより、簡単に見やすく共有できるようにする。 ICT支援員も継続配置であれば、2年目となり、教職員との連携も図れるようになってきているため、支援や研修の充実を図っていく。 	<p>＜意見・要望＞ ・民間企業では、リスキリング(学びなおし)が、会社を成長させていく上で必須となっている。学校においても、保護者、児童が学びなおしができる機会を考えてもよいのではないだろうか。 ・よい授業のアンケートは、自らの指導を振り返り、独りよがりの授業にならないために、効果的に活用してほしい。 ＜評価＞A評価が妥当である。</p>

